

なり、後日さらに充実した町誌が発刊されることを望むものであります。

本誌編纂に際し、久保高一先生の「明浜こぼれ話」や近隣町誌等の資料の引用など、心よく了承を得、また国、県関係機関をはじめ、愛媛新聞、NHK、四国電力、NIT、郵便局、町内教育、経済関係団体のご協力に対し、心からお礼申し上げます。

法華津山系を背に、宇和海を包み、美しい自然と、素朴で、人情豊かな明浜町を知ってもらうため、広くご愛読賜りますことをお願い申し上げます。

昭和六一年八月吉日

# 目次

口 絵

発刊のことば

明浜町長 酒井正直

町誌編纂にあたり

明浜町誌編纂委員会 委員長 山田利明

凡 例

## 第一編 自然環境

### 第一章 位 置

第一節 位置と略図..... 3

第二節 面積..... 6

次 第二章 地 勢

目 録

第一節 概 説	7
第二節 地 形	7
第三節 湾頭低地形	8
第四節 山 系	8
第五節 水 系	10
第六節 地 質	11

第三章 海 岸

第一節 海 岸	14
第二節 サング礁と明浜	14

第四章 災 害

第一節 概 要	16
第二節 南予地方における地震年代表	17
第三節 台風、洪水、旱魃	18
第四節 昭和四二年の大旱魃	20

第五章 気 候

第一節 概 説	24
第二節 気 温	25
第三節 降 水 量	30
第四節 季節による天気表	32
第五節 南予分場調査の天気表	33

第六章 生 物

第一節 動 物	35
第二節 植 物	37
第三節 町内自生の薬用植物	39

第七章 人 口

第一節 人口の推移	44
-----------	----

第八章 地 名

第一節 はじめに	54
----------	----

第二節	町名	54
第三節	村名	54
第四節	大字名	55
第五節	字、小字	57

## 第二編 歴史

### 第一章 古代

第一節	沿革	77
第二節	宇和の語源	78
第三節	古代の概観	79
第四節	弥生時代	80
第五節	律令官制と宇和郡	84
第六節	純友の乱	85
第七節	橘遠保その一族と宇和郷	90

### 第二章 中世

第一節	源平時代と伝説	93
第二節	西田御前様 <small>さいだごぜんさま</small>	93
第三節	西園寺氏と宇和郷	94
第四節	城と砦と城主	97
第五節	高山守護者と城主の討ち死に	102
第六節	西園寺氏の終焉	106

### 第三章 近世

第一節	秀吉の四国平定と宇和郡	110
第二節	検地と刀狩り	111
第三節	江戸幕府の開府	114
第四節	宇和島藩の創立と吉田藩の分立	115
第五節	秀宗公高山沖難船の事	127
第六節	俵津河内谷の開作 開祖 左馬大夫春延	127
第七節	新浦田之浜の開作	129
第八節	藩政職制	132

第九節 庄屋……………146

第一〇節 田制と農民……………153

第一一節 耕地面積と物成……………155

第一二節 寛文の検地……………157

第一三節 住民の動き……………164

第一四節 慶安御触書……………168

第一五節 藩の専売制について……………175

第一六節 飢饉……………177

第一七節 一揆と騒動……………184

第一八節 伊能忠敬来村記……………216

### 第三編 行政

#### 第一章 自治

第一節 町村制の実施まで……………233

第二節 町村制の実施……………250

第三節 町村合併促進法の施行と経緯……………281

第四節 豊海村の発足……………285

第五節 明浜町の発足……………294

#### 第二章 議会と選挙

第一節 議会……………321

第二節 選挙制度の変遷……………327

第三節 明浜町選挙の結果……………330

#### 第三章 治安・消防

第一節 治安……………334

(一) 警察署と駐在所のあゆみ……………334

第二節 消防……………336

(一) 本町でおきた大火で記録に残るもの……………336

(二) 消防組織の変遷……………337

(三) 義拳消防組救護船……………345

(四) 明浜沖でフェリー沈没 消防団救護活動……………347

(五) 明浜町消防体制の現況……………348

第三節 東宇和事務組合..... 351

第四章 兵 事

第一節 兵制の変遷..... 355

第二節 主な戦役..... 358

第三節 宣戦なき戦争「日中戦争」と太平洋戦争における郷土部隊松山第二連隊記..... 366

第四節 太平洋戦争と明浜町..... 369

第五節 戦時中の町民生活..... 370

第六節 慰霊塔と遺勲録..... 374

第五章 民 生

第一節 社会福祉の沿革..... 397

第二節 老人福祉と施設..... 400

第三節 児童、母子、身体障害者福祉..... 408

第四節 生活保護と民生委員..... 413

第五節 国民年金..... 416

第六節 保 育 所..... 419

第七節 明浜町社会福祉協議会..... 421

第六章 保 健 衛 生

第一節 概 説..... 422

第二節 伝 染 病..... 423

第三節 結核と予防対策..... 425

第四節 農村共同保健計画事業渡江地区診断..... 428

第五節 三瓶町、明浜町衛生事務組合..... 433

第六節 医療施設の沿革..... 437

第七節 国民健康保険..... 441

第七章 公 営 企 業

第一節 水道事業..... 446

第八章 明浜町総合開発事業

第一節 概 説..... 452

第四編 産業経済

第一章 農 林 業

第一節 農 業	457
第二節 柑 橘	472
第三節 狩 江 の 梨	494
第四節 畜 産 業	496
第五節 林 業	502
第六節 農地の変革	507
第七節 土地改良区	517
第八節 農業関係団体	520
第九節 農業移民	537

第二章 水 産 業

第一節 藩政下の漁村(浦)	547
第二節 近海漁業	584

第三章 商 工 業

第三節 漁業関係団体と漁港施設	589
-----------------	-----

第一節 商 業	598
第二節 工 業	603
第三節 製 糸 業	608
第四節 食 品 製 造	612
第五節 生コン及び珪カル工業	618

第四章 鉱 業

第一節 石 灰	619
第二節 マンガン	628

第五章 金融・物価・商工会

第一節 金 融	633
第二節 物 価	638
第三節 商 工 会	645

次 第六章 観 光

目 第一節 観光と明浜町.....648

第七章 交通・通信・電気

第一節 交 通.....659

第二節 通 信.....687

第三節 電 気.....706

第五編 教 育

第一章 学 校 教 育

第一節 学校教育の概要.....711

第二節 町内学校の沿革.....726

第三節 学 校 給 食.....799

第四節 育 英 事 業.....802

第二章 社 会 教 育

第一節 社会教育のあゆみ.....804

第二節 青 年 教 育.....808

第三節 婦 人 会.....826

第四節 P T A (父母と教師の会).....838

第五節 社会教育活動.....844

第三章 教 育 行 政

第一節 沿 革.....864

第二節 教育委員会.....872

第六編 文 化

第一章 文 化 財

第一節 文化財の大別.....879

第二節 古里の心だのこる名木……………925

第二章 民俗行事

第一節 衣食住……………930

第二節 年中行事……………939

第三節 冠婚葬祭……………961

第三章 民俗芸能

第一節 郷土の歌……………972

第二節 郷土の芸能……………990

第三節 郷土の方言と民話……………1003

第四章 文芸

第一節 郷土の文化活動……………1041

第二節 明浜町立歴史民俗資料館……………1070

第七編 宗教

第一章 神社

第一節 神社の変遷について……………1077

第二節 町内の神社について……………1078

第二章 寺院

第一節 寺院の変遷について……………1094

第二節 町内の寺院について……………1096

第三章 諸派

第一節 天理教……………1110

第二節 その他の宗教……………1112



第八編 人

物

- 初代庄屋助太郎義綱 威徳院源界法印 初代横目組頭与治兵衛光綱 田中九郎治信義 平蔵外三
- 名催合網 田中九郎治信興 大阪屋伝兵衛 金剛寺八世妙峯和尚 文政の孫三郎 井上新三郎
- 四代目原田庄七盈博 伊井庄吾 宇都宮角治 井上駒次郎 益田伝之進 菅吉三郎 山下定次郎
- 原田時只 増山与平 山下五郎 二宮忠兵衛 武山雪庵 西の海安吉 田中三郎治 遠藤唯次郎
- 佐藤関治郎 西田善太郎 大塚高太郎 中村重太郎 杉山岩三郎 長崎東海 山本亀治 田村弥
- 七郎 俵徳太郎 宇都宮小市 二宮斧七

第九編 年

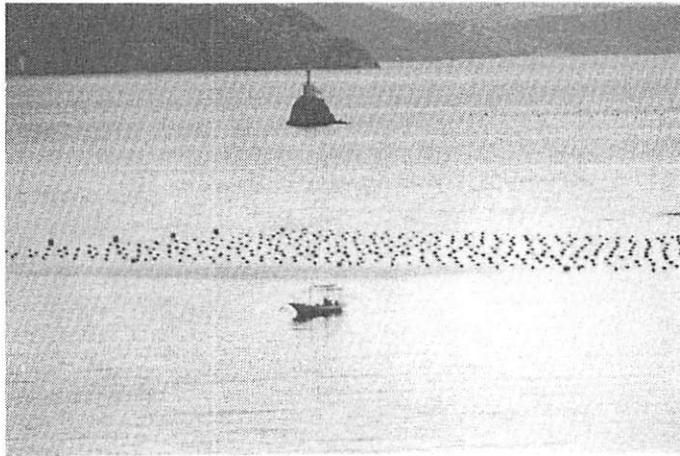
表

..... 1147

明浜町誌編集に携わった人々  
あとがき

明浜町誌編者 酒井 徳

第一編 自然環境



宇和海の水越島